巻頭言

アジャイルな研究

取締役副所長

髙橋 理一

「アジャイル・マニファクチュアリング」、「アジャイルな経営組織」などアジャイルさを基本コンセプトとするシステムの構築と運用が積極的に進められている。現在のように変化の激しい環境の中で、企業としての特徴をいち早く打出し、競争に勝ち抜き、生き残っていくためには、一歩でも先に機敏に、俊敏に、的確に決断し行動できるシステムが不可欠と考えてのことである。情報技術は、今後ますます世の中に浸透し普及してゆくことは明らかなので、変化のスピードはさらに加速されるであろう。変化への対応スピードの早い企業が遅い企業を圧倒する機会はますます増えてくる。となると、企業活動の上流に位置する研究活動には、もっともアジャイルさが求められる。アジャイルな研究を実践するために、研究所、研究者には鋭い感性が求められる。「現在生じている様々な出来事や事象を未来に向けて解釈し、世の中の風の向きとその意味を読む。研究トレンドや技術開発動向を解釈し、風の向きと合せて技術の変化時機を読む。そこから最先端あるいは新しいアイディアやコンセプトをベースにした研究シーズ、ニーズを発掘する」のである。画期的なアイディアやコンセプトであっても他に遅れをとればまったく意味がなくなる。後手に廻らないように、常に感性を磨き、鋭く研ぎすまそう。